

「江府町まち・ひと・しごと創生総合戦略有識者会議」による 平成 29 年度地方創生事業の検証について

開催日 平成 30 年 8 月 23 日

有識者

産	江府町商工会 会長	川端雄勇
官	西部総合事務所 日野県土整備局副局長（江府町担当コンシェルジュ）	高橋幸男
学	米子工業高等専門学校 教授	加藤博和
金	鳥取銀行根雨支店 支店長	田中 敦
金	山陰合同銀行江府出張所 出張所長	鶴田佳文
言	新日本海新聞社 西部本社 元編集委員	門永隆一

有識者からの意見

ー基本目標 I 住んでみたいまち、帰りたくなるまちづくりー

◆住まいの整備

- 住宅整備は事業の目標値にこのままでは達成できないので、あくまで大目標に対しての事業であるから、目標値の見直しをすること。
- 移住先として江府町を選択していただけるよう、江府町の特徴は何か明確にし、いくつか決め打ちで取り組むこと。

◆にぎわいの創出

- 多くのイベントが年間を通してあるので、日程を含めてうまく年間平準化できるようマネジメントを。
- 町外からお客さんに来ていただけるよう新しい戦略（文化遺産、サントリーなど）も検討を。

◆効果的な情報発信

- 奥大山ファンクラブが目標とする年間 300 人を目標値とする。また、独自に交流している神戸市魚崎町などにも取り組みを広げること。
- テレビによる映像配信にこだわらず、よりインターネットを活用した配信にシフトするなど見直しを。

ー基本目標Ⅱ すこやかでいきいき暮らせるまちづくりについてー

◆出会い・結婚を支援

- 青年団などの取組には引き続き支援を。
- 昨年度も事業の在り方を見直すように指摘している。それに対して NPO 法人で取り組むとのことなので、その方向で進めること。

◆切れ目のない子育て支援

- 人口減少、若い方が減っている。若い方が定着するような施策、世帯で帰って来られるような強力な施策を。

◆次世代を担う人材育成

- 一流の技（わざ）体感事業については、サントリーと連携しながら事業の検討を。

◆安心の保健医療体制づくり

- 受診率が上がるような具体的な改善対策を。大山町などは町内デマンドタクシーのチケットを配るなどしている。交通手段が要因ならばその対策を。

◆高齢者の暮らし

- 冬場だけ別な所に暮らされるということは抵抗がある可能性がある。事業の見直しを。

ー基本目標Ⅲ 産業振興により活力と雇用を生み出すまちづくりー

◆新たな事業の創生

- 起業セミナーというやり方を変えた方が良い。起業セミナーにプラスして何か他の取組みの検討を。

◆農業の振興

- 担い手の育成など難しい面はあるが、昨年度の具其他的な対応策と同じなので、県内の動きを調査するなど、他町を参考に取り組みの工夫を。目標値の見直しをすること。

◆産業の振興

- 総花的に事業をしなくてもある目標に対して、具体的にどうやっていくか、それをどうして支えていくか検討を。できない事業は見直しを。

◆就労支援の推進

- こういうキャリアプランがあると町外から来ていただくことに活用するなど、農業や移住定住などあわせて取り組みを。